



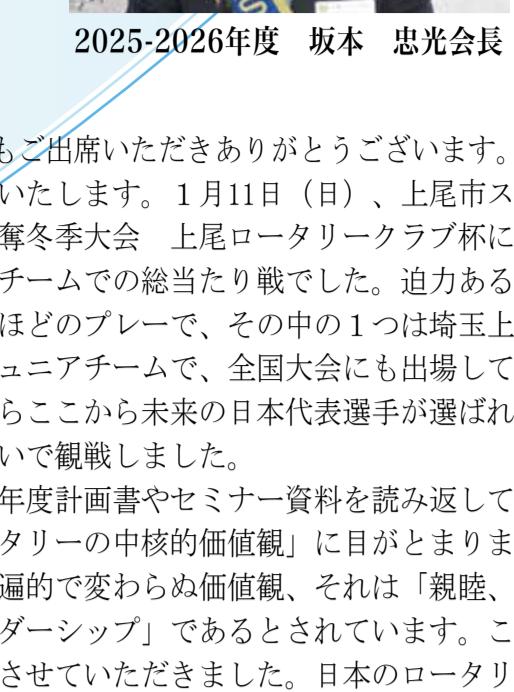
上尾ロータリークラブ

2025-2026年度

**UNITE
FOR
GOOD**

**よいことの
ために
手を取りあおう**

第3090回 例会
2026.1.15



2025-2026年度 坂本 忠光会長

週報 No.2310

発行 2026年1月22日

2025-2026年度

会長 坂本 忠光

幹事 大木 崇寛

副会長 斎藤 哲雄

副幹事 奥川 淳一

編集責任者・公共イメージ向上委員会

委員長 寺脇 貴浩

ビジター

地区米山記念奨学増進委員会委員

山岸和美様(大宮シティRC)

親睦活動委員長

別所純一様(大宮シティRC)

ゲスト

2025学年度 米山記念奨学生

シャキヤ ソスティカさん

(世話クラブ:北本RC)

シュレスター アビシクくん

(世話クラブ:大宮シティRC)

行事予定

2月 5日 卓話「あいラジ」について

2月 12日 会員卓話 宇多村海児会員

2月 20日 インターシティミーティング

(於:クリアこうのす)

2月 26日 職業奉仕委員会

日帰り視察旅行(大洗)

会長あいさつ

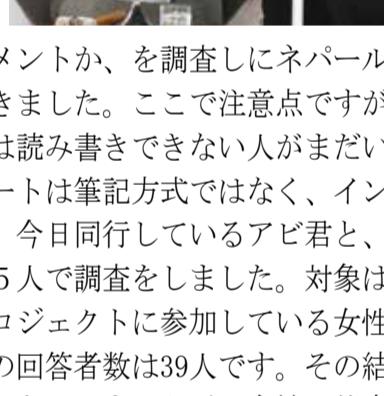
皆さん、こんにちは。本日もご出席いただきありがとうございます。前回の例会後からの報告をいたします。1月11日(日)、上尾市スポーツ少年団バレー部争奪冬季大会 上尾ロータリークラブ杯に出席してきました。今回は3チームでの総当たり戦でした。迫力ある試合展開、小学生とは思えぬほどのプレーで、その中の1つは埼玉上尾メディアックス下部組織のジュニアチームで、全国大会にも出場している強豪でした。もしかしたらここから未来の日本代表選手が選ばれるかもしれませんというような思いで観戦しました。

さて年末年始の間に改めて年度計画書やセミナー資料を読み返してみましたが、その中の「ロータリーの中核的価値観」に目がとまりました。ロータリーにとって普遍的で変わらぬ価値観、それは「親睦、高潔性、多様性、奉仕、リーダーシップ」であるとされています。この「親睦」について少し勉強させていただきました。日本のロータリーでは「親睦と奉仕の両輪」と語られています。親睦を英語では「フェローシップ」となり「フレンドシップ」ではありません。フェローシップは「志を同じくする仲間、仲間意識」などの意味で、フレンドシップは「親しみ合って仲良くすること、友情」などの意味があります。四つのテストの3つ目、好意と友情を深めるか、の友情の部分は英語でフレンドシップとなっています。ロータリー用語としての「ロータリーの親睦フェローシップ」とは、1923-24年度のR I 会長ガイ・ガンディーさんの書物の中に「良き親睦は、決してロータリーの全てではないのであって、良き親睦はロータリーという苗木が根をおろし成長するための土壤を成している」とありました。そして、良き親睦を形成するものとして、①真心のこもった握手、②姓ではなく名前で呼び合うこと、③歌の合唱を行うこと、④ある種のウイットに富んだ行動、⑤各会員相互間に行われるその他の親切、⑥議長・同僚たる会員及び招待者に対する礼儀正しい行動、⑦老練な企業経営者にしてはじめてできる紳士的な振る舞いと思慮深さ、の7つを挙げています。この7つの項目を踏まえて、ロータリアンが情報や経験を語り合い、好意と友情を深め合い、自己改善を図り、奉仕の心を育てて高める例会が「親睦という土壤」となり、例会で高められた奉仕の心で、各々



卓話者紹介

地区米山記念奨学増進委員会委員 山岸和美様

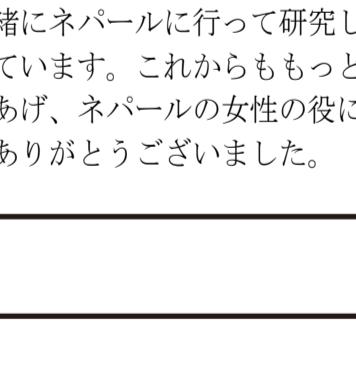


米山記念奨学増進委員会委員を務めています。大宮シティRCより出向しています。上尾ロータリークラブの皆様には、米山記念奨学事業にご支援いただ誠にありがとうございます。本日はシャキヤソスティカを卓話にお招きいただきありがとうございます。彼女は一昨年の選考で、なんと奨学生の中で1番の成績で、また本日同行したアビ君が2番です。とても優秀なお二人を連れてまいりました。シャキヤは名古屋大学院に合格して4月から名古屋に行きます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

例会主題

私の研究について

シャキヤ ソスティカさん(世話クラブ:北本RC)



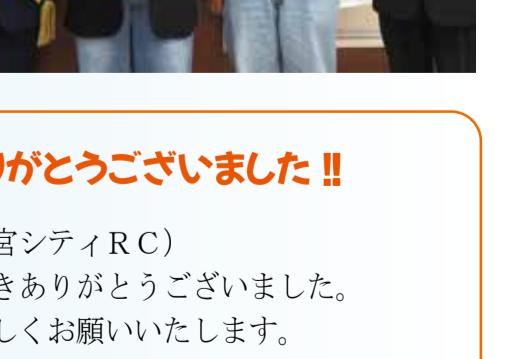
こんにちは。シャキヤ ソスティカと申します。私の名前はちょっと発音が難しいと言われますが、仏様の釈迦と同じで、シャカと呼んでいただけて結構です。今回で8回目の卓話になりますが「私の研究について」を話すのは今回初めてです。

私は、共栄大学国際経営学部4年生です。ネパール出身で、先日、名古屋大学院の生命農学研究科に進学する事が決まりました。早速私の研究のテーマを紹介させていただきます。私のテーマは、英語で、BEYOND PARTICIPATE , Exploring Gendered Labor Burdens and Intergenerational Time Poverty In Likhu です。日本語に訳すと「参加を超えて」、「リク」はネパールの村、首都カトマンズから2時間くらいの田舎の村で、「リク村における女性の労働負担と世代間の時間貧困」となります。私がこのテーマを選んだ理由は2つあって、女性が今ネパールで生活している間にどういう問題があるかとか、農業をしている方も多いですが、ネパールの農村に自分でできることはないかと考えて、テーマにしました。

この研究の背景をお話しします。ネパールでは海

女性の労働

量が増えてるかどうか、家事やケア労働は誰が担っているのか、経済参加またはプロジェクト参加は本当



のエンパワーメントか、を調査しにネパールに昨年11月に行ってきました。ここで注意点ですが、ネパールの田舎には読み書きできない人がまだいます。なのでアンケートは筆記方式ではなく、インタビュー形式にして、今日同行しているアビ君と、あと私の高校の友達5人で調査をしました。対象はもちろん農業開発プロジェクトに参加している女性です。回答者の数は39人です。その結果の数値はまだ集計できていませんが、女性の仕事量が増えているという結果が一つ。家事は減っていません。自分を手伝ってくれる人がいないから家の量も時間も減っています。

この研究が重要だと思ったことは3点あります。1点目、開発プロジェクトや持続的なプロジェクトは必ずしも良いことは限りません。女性の参加だけでは不十分です。2点目、プロジェクト参加について「〇パーセント達成」と数値で測っていましたが、数値には反映されない女性の負担があります。

労働の中身を見る必要があると思いました。3点目、家庭内のケア労働や社会的な労働など、女性にとっての本当の支援を根本から考えないといけない、開発の評価方法を見直す必要があると思いました。

田舎の女性たちが苦労をしているので、私にできることは何かないかと思うとともに、今後も農業開発と女性の時間貧困の研究を引き続きしたいと思っています。私が春から行くのは名古屋大学院農学部、生命農学研究科で、生物生産学が研究になります。

その中のゲノムの分野では、例えばネパール女性が農業を効率よくできるようにする農作物を作ると、病害に強い品種を作り労働時間を短縮する品種改良を、引き続き研究したいと思っています。名古屋大学の先生も「一緒にネパールに行って研究したいな」と言ってくれています。これからももっと頑張って研究の成果をあげ、ネパールの女性の役に立ちたいと思います。ありがとうございました。

スマイル

シャキヤさん、アビくん、卓話 ありがとうございました!!

山岸和美様 (RID2770 2025-2026 米山記念奨学増進委員会委員 大宮シティRC)

お時間があるようなの

で、私の研究も少しだけ

お話しをいたします。私も

シェキヤさんと同じくネ

パール出身です。私の研

究は災害と文化遺産につ

いてです。文化遺産が壊れることと、その修復が遅

れていることについて、ネパール国民はどう感じ

いるのかが研究テーマになります。昨年11月、シャ

キヤさんと一緒にネパールに行き調査をしました。

2月にインタークト

訪日団で、韓国から1名

の高校生が上尾ロータリ

ークラブに来ます。その

準備で、皆さんのお手元

に青少年奉仕委員会を開催

のご案内をお配りしました。

1月27日(火)18時半

から、たべどろ餅で開催します。今回訪日する韓

国学生は1名で、送迎等を日によってはお願いしま

せなければと思っておりますので、どうぞ皆様、参加ご

協力のほどよろしくお願ひいたします。

本日もどうぞよろしくお願ひいたします。

委員長報告

青少年奉仕委員会 樋口 雅之委員長

2月にインタークト

訪日団で、韓国から1名

の高校生が上尾ロータリ

ークラブに来ます。その

準備で、皆さんのお手元

に青少年奉仕委員会を開催

のご案内をお配りしました。

1月27日(火)18時半

から、たべどろ餅で開催します。今回訪日する韓

国学生は1名で、送迎等を日によってはお願いしま

せなければと思っておりますので、どうぞ皆様、参加ご

協力のほどよろしくお願ひいたします。

繰り返しになりますが問題点は、女性が家事を行

い、農作業に従事し、ケア労働もすることです。男

性がいないと、義理の両親の生活をサポートするの

も女性になってしまい、女性が働きに出ると、そ

の娘が家庭を手伝うことになります。もちろん家族

の他の女性メンバーたちも手伝いますが、結局、農

業も家事もこなすのは女性で、エンパワーメントと

して意識できないということが問題点だと感じま

した。研究で女性たちにアンケートを行いました。

「本当に忙すぎる」、「自分の家事も減らず、そ

のうえ農作業や働きに出ないといけない」という回

答が返ってきて、もちろん自分のために働いている

のではありません。また男性が海外に行くと、家事も農

業も自分でもわからない、プロジェクトでやってい

るのは農業をどうやって生かすかではなく、プロジェ

クトに参加しても説明が足りず、リクの女性に何

を学んだか、自分に必要なものは何か、何をどうや

って使うのかなど、まるでわかっていない状態でした。

女性がプロジェクトに参加することが評価され

がちですが、もっとプロジェクトの意義を理解して

いただきたいと、研究テーマとして掲げながらコ

ミュニケーションをとっています。

繰り返しになりますが問題点は、女性が家事を行

い、農作業に従事し、ケア労働もすることです。男

性がいないと、義理の両親の生活をサポートするの

も女性になってしまい、女性が働きに出ると、そ

の娘が家庭を手伝うことになります。もちろん家族

の他の女性メンバーたちも手伝いますが、結局、農

業も家事もこなすのは女性で、エンパワーメントと

して意識できないということが問題点だと感じま

した。研究で女性たちにアンケートを行いました。

「本当に忙すぎる」、「自分の家事も減らず、そ

のうえ農作業や働きに出ないといけない」という回

答が返ってきて、もちろん自分のために働いている

のではありません。また男性が海外に行くと、家事も農

業も自分でもわからない、プロジェクトでやってい

るのは農業をどうやって生かすかではなく、プロジェ

クトに参加しても説明が足りず、リクの女性に何

を学んだか、自分に必要なものは何か、何をどうや

って使うのかなど、まるでわかっていない状態でした。

女性がプロジェクトに参加することが評価され

がちですが、もっとプロジェクトの意義を理解して

いただきたいと、研究テーマとして掲げながらコ

ミュニケーションをとっています。

繰り返しになりますが問題点は、女性が家事を行

い、農作業に従事し、ケア労働もすることです。男

性がいないと、義理の両親の生活をサポートするの

も女性になってしまい、女性が働きに出ると、そ

の娘が家庭を手伝うことになります。もちろん家族

の他の女性メンバーたちも手伝いますが、結局、農

業も家事もこなすのは女性で、エンパワーメントと

して意識できないということが問題点だと感じま

した。研究で女性たちにアンケートを行いました。

「本当に忙すぎる」、「自分の家事も減らず、そ

のうえ農作業や働きに出ないといけない」という回

答が返ってきて、もちろん自分のために働いている